



かぜくも

いわき支援学校

地域支援センター通信 No. 21

R3. 3. 8発行

「困った子ども」ではなく「困っている子ども」としての関わり

教育支援アドバイザー 鈴木 貞安

出かける支援で訪問した学校での授業の様子では、相談内容に焦点を絞って参観することになっています。その中で、学級の掲示物など拝見させていただき、子どもたちの作品に対する担任がしたためた適切なコメントから、子どもたち一人ひとりのよさを確認することができたことが何より貴重な情報になりました。

さて、どうしても離席したり大声を出したり当たり前のことができない、皆が直ぐにできるのに時間がかかったりする子どもは、「困った子」というとらえ方をしがちです。しかし、その行動には、わけがあってのことなのです。そういう子に対しては、「困っている子」という視点に立つことが大切です。本校では、幼・小・中学校等からの要請を受け「出かける支援」による訪問を通して、子どもの関わりを見直しや、よさを引き出すために該当校の先生方と共に考え合いながら対応しております。

コロナ禍の中、保護者と教師、教師間での話し合う時間も十分とれない中ではありますが、困っている子どもの理解に向けて担任だけで抱え込まないことを願っています。



今年度の活動を振り返って

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、地域支援センターの活動は規模を縮小しながらの開催となりました。かぜくもひろばは、3回実施しましたが参加人数をこれまでの半数(5~6人)にしての実施としました。かぜくも教室は1回中止となり、3回実施しました。ミニセミナーは2回実施しましたが、これまでと会場を変更し体育館で実施しました。

「出かける支援」としては、教育支援アドバイザーと各学部の教員とで市内の幼稚園・保育所・小学校・中学校への支援を行ってきました。各校の先生方と一緒にお子さん達の様々な課題について考える貴重な機会となりました。

かぜくもひろば



かぜくも教室



ミニセミナー



出かける支援



令和3年度の「かぜくも」の活動については、現在のところ“ひろば”は6回、“教室”は4回、“ミニセミナー”は3回の実施を予定しております。詳細につきましては、4月以降ホームページやポスター等でお知らせしますのでご覧ください。また、各活動の申し込み状況等についてもホームページで随時更新する予定ですので参加を考えている場合の参考にしてください。皆様の参加をお待ちしております。

今後とも地域支援センターの活動へのご理解とご協力をお願いいたします。